

平成30年度事業報告

平成30年7月 1日から
令和 元年6月30日まで

1 事業の成果

○日本IDDMMネットワークの3つの約束

インスリンの補充が必須な患者とその家族一人ひとりが希望を持って生きられる社会を実現するために、平成22年度に“救う”“つなぐ”“解決する”の3つの約束を掲げました。

そして、平成23年度に開催した日本IDDMMネットワーク法人化10周年・1型糖尿病研究基金設立5周年記念シンポジウム開催を機に、ゴールは、2025年に1型糖尿病を「治らない」病気から「治る」病気にすることにしました。

さらに、平成25年度には、インスリン補充から解放され病気になる前のもとの体に戻る「根治」に、現在の治療法の改善により体への負担が軽くなり生活の質が向上する「治療」並びにこれから新しく発症する患者を無くして1型糖尿病を完全に克服する「予防」を加えて、1型糖尿病の「根絶」と定義し、「根絶」を最終目標として掲げました。

その約束を果たすための平成30年度の主な取り組みは以下のとおりです。

○“救う”－患者と家族の皆さんに私たちの経験を還元します。

地域患者・家族会への助成金の交付、20歳以上の患者支援策実現等に対する政策提言、患者の祖父母や学校・幼稚園等への説明用パンフレット、ジュエCグルコース及び1型糖尿病[IDDMM]お役立ちマニュアルPart1～5の配布、電話・メール等での相談対応、ホームページやフェイスブック等での情報発信、会報の発行などに取り組みました。

相談対応については、AI（人工知能）を活用したプログラムを2020年4月の完成を目指して取組中です。ホームページは、ママボノ（育休中や離職中の子育て女性たちによる社会貢献活動）の皆様のご尽力もあり平成30年7月にリニューアルオープンしました。

政策提言では、難病法（「難病の患者に対する医療等に関する法律」、平成27年1月1日施行）に基づく対象疾病「指定難病」となり20歳以上の患者も医療費助成が実現することを目指して患者数把握等のための調査研究協力や厚生労働省への要望にも取り組みました。その結果初めて1型糖尿病が指定難病の検討候補に挙げられましたが、最終的には採択されませんでした。今後とも専門家とも連携して対応して行きます。

特別児童扶養手当の不適切な取扱いに関しては厚生労働省や当該地方自治体に対して改善の申し入れを行い、認定非該当（却下）判定の取り消しにつながったケースもありました。

発症初期の患者と家族にとって必要なもの（専門医監修によるわかりやすい医療情報冊子、療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧、患者・家族の体験談等）を詰め込んだ「希望のバッグ」（平成26年11月配布開始）プロ

プロジェクトは、スポンサー企業の皆様のおかげで好評のまま継続することができました。1型糖尿病が「治る」病気になるまで継続する必要がありますので、毎年発症している全国の患者全員（2000人を見込）に届けることができるよう今後とも重点事業として取り組んでいきます。

加えて、インスリン補充が必要な2型糖尿病患者のための希望のバッグ（平成29年12月配布開始）の送付もスポンサー企業の皆様のご支援により継続することができました。また、テルモ生命科学振興財団様の医療・健康向上貢献事業助成を受け「教師のための2型糖尿病対応マニュアル」及び「2型糖尿病の孫を支える祖父母のためのパンフレット」を作成することができましたので、当バッグにも詰めて、啓発して行きます。

また、“第2回 IDDM こども会議”を家入勲熊本県大津町長にも出席いただき開催しました。家入町長は「このような思いで（1型糖尿病）治療をしながら、皆さんが頑張っている生活されていることがわかりました。糖尿病を治療しながらも生活しやすい町づくりをするために、まずは、糖尿病という病気を正しく町民に知ってもらうこと、そして、糖尿病という病気を少しでも減らすために、早期発見、早期治療につなげる取組みを行っていきたい」と発信されました。

認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパン様の協力と日本郵便年賀寄付金のご支援を得て“低血糖アラート犬”育成に取り組む、次年度には2頭が活動を開始できる目途が立ちました。

なお、患者への奨学金給付及び起業支援の準備は整いましたが、患者を取り巻く社会保障制度の勉強会は延期、糖尿病患者向け料理教室は中止しました。

○ “つなぐ”

－患者・家族と研究者、医療者、企業、行政、そして社会とつなぎます。

カーボカウント&先進デバイス活用セミナーは、引き続き好評で、多くの医療関係者にも参加いただき、確実に医療・療養環境の充実につながっていると認識しています。インスリンポンプの安全講習会も含めて参加者の高い評価を得ています。

学校や地方自治体等での各種講演、オウンドメディアサイト「PRESS IDDM」での発信、IDDM白書の発行、さらに、テレビ、新聞等でたくさん取り上げていただき、1型糖尿病の認知度がさらに向上したと認識しています。

また、再生医療（動物の体内でヒトの臓器を作成する技術）については文部科学省に対して意見を伝え、平成31年3月の規制緩和（動物性集合胚の取扱いの見直しに係る「特定胚の取扱いに関する指針」の改定）が実現し、国内での実験が可能になりました。

さらに、平成27年度及び28年度に集中的に研究助成を行ったバイオ人工膵島移植に関する社会的インパクト評価報告書（専門家に委託）が完成し、バイオ人工膵島移植プロジェクトを通じて創出される社会的価値の総額（総便益）は、約668億円、患者1人当たりの便益は年間約67万円に上ることが明らかになりました。

阪本雄一郎佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター長が中心となって取り組む災害時の糖尿病患者支援システムの構築に向けて協力しました。難病患者のマッピング作業と危険予測により必要とされる医療介入の予測に役立つことを期待しています。

なお、ホームページの一部で、英語、中国語、フランス語で併記しましたが、マニフェスト絵本の作成は中止しました。

○ “解決する”

－研究者の方々に研究費を助成し、1型糖尿病の根治への道を開きます。

1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究を応援する「1型糖尿病研究基金」による公募型の13回研究費助成（4件720万円）のほか複数年継続の研究費助成（3件300万円）を行いました。

また、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税を財源として、5テーマで3820万円の研究費助成を行いました。

資金循環型（研究成果が出た場合は1型糖尿病研究基金へ資金をリターン）の研究支援第2号として、「ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症1型糖尿病モデルブタの開発」に対し徳島大学と1000万円（年間200万円を5年間継続）の資金提供契約を締結しました。

これにより累計では、助成件数62件、助成金額3億700万円となりました。

“冠基金”である「山田和彦1型糖尿病根治基金」を財源にした「第2回山田和彦賞（副賞1000万円）」は、制御性T細胞の発見など免疫学の分野で素晴らしい功績をあげられた坂口志文大阪大学免疫学フロンティア研究センター一実験免疫学・特任教授に決定しました。なお、授賞式と受賞記念講演会は、2019年9月16日に開催します。

また、研究費助成公募の新たな形態として、1型糖尿病の「治療」、「根治」、「予防」につながるあらゆる研究を支援するため、助成金額を概ね1000万円以上とする研究課題の随時募集を開始しました

1型糖尿病の根治、治療、予防に向けた研究がさらに進むことを期待しています。

『1型糖尿病 2025年「治らない」から「治る」へ』をテーマに据えた日本IDDMネットワークサイエンスフォーラムは東京都渋谷区で開催しました。さらに、これまで研究助成を行った研究機関（大阪大学、京都府立大学、福岡大学、富山大学、佐賀大学）へ患者・家族が出向く「研究室訪問」を実施しました。

1型糖尿病を「治る」病気に変えようとしている医療者・研究者や患者・家族のみならず病気を知らない方々の参加も得て、「治る」病気になることへの期待感や研究者のモチベーションが高まっています。

1型糖尿病“根絶”のため、寄付に対し税制優遇措置が受けられる全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定特定非営利活動法人としての利点をいかすために様々なメニューを用意して寄付のお願いをしました。

基金の名前や金額、助成対象などを自由に決められる、寄付者の方の思いに合ったプログラム“冠基金”は、報知新聞社制定の第19回“ゴールドスピリット賞”を受賞した阪神タイガース岩田稔投手の指定による報知新聞社からの寄付金と岩田稔投手の1型糖尿病に関する活動に共感した方々による「岩田稔基金」の増額（総額400万円）をはじめ、第5号「柳瀬美穂1型糖尿病研究基金」（400万円）、第6号「Sky基金」（300万円）、第7号「竹原ファミリー基金」（200万円）と続々と冠基金が誕生しました。

本年度は新たに全国各地のライオンズクラブ（ライオンズクラブ国際協会 30-A 地区 1R-1Z 東京丸の内ライオンズクラブ〈東京都〉、同 335-A 地区 3R-1Z 三原ライオンズクラブ〈兵庫県南あわじ市〉、同 334-A 地区 2 リジョン〈愛知県豊橋市〉、同 335-C 地区〈京都・滋賀・奈良エリア〉、同 334-C 地区 2R-3Z 川根ライオンズクラブ〈静岡県島田市〉、同 334-C 地区 2R-3Z 島田ライオンズクラブ〈静岡県島田市〉、同 334-C 地区 2R-3Z 榛南ライオンズクラブ〈静岡県牧之原市〉）様にご寄付をいただきました。

このほか、研究推進のために寄付つき商品（販売額の一定割合を寄付へ）、ノーモア注射希望の本プロジェクト（家庭や職場で不要になった本を提供していただき寄付へ）、書き損じはがきプロジェクト（家庭や職場にある書き損じ・未使用のはがきを提供していただき寄付へ）、お宝エイド（家庭に眠っている貴金属、アクセサリ等を寄付へ）等多彩なメニューによる取り組みもあり、本年度の1型糖尿病研究金には30,096,703円（佐賀県庁へのふるさと納税を除く）がよせられました。

様々な寄付メニューの中でも、ノーモア注射マンスリーサポーター（1口1,000円を毎月口座から自動的に引き落とし）の強化に取り組み、693口279名（前年度比58名増）となりました。「希望の自動販売機プロジェクト」は、企業、医療機関、公共施設、ショッピングセンター等にご協力いただき、設置台数が68台（本年度6台新設）となりました。この自動販売機は、売上の一部が寄付になるだけでなく、1型糖尿病のことを掲示しており、病気の啓発にも寄与しています。

ソフトバンク株式会社様には「つながる募金」（スマートフォンなどから簡単に寄付ができるサービス）並びに「チャリティモバイル」（専用WEBから対象機種を新規または機種変更で契約いただくと、ソフトバンク株式会社様が、6,000円＋毎月の利用料金の3%を当法人へ2年間に寄付）でご支援をいただいておりますが、期待に応えられる実績はあがりません。

ヤフー株式会社様には、YAHOO! JAPAN ネット募金でご協力をいただき、6月末の累計で約13,000人の方々から300万円を超える寄付を頂戴しています。

本年度で5年目となる「日本IDDMMネットワーク」を指定した佐賀県庁へのふるさと納税（寄付）では、佐賀県とふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」（株式会社トラストバンク運営）のご協力により、平成30年度（佐賀県庁の会計年度：4月－3月）は2333件、84,296,229円と、前年度比10%減となりました。令和元年度（同）は、6月末現在で570件、17,422,369円の指定寄付を頂戴しており、前年同期比78%増となっております。寄付額の95%が佐賀県庁から当法人へ寄付される予定です。主に研究費助成のために活用します。

特に「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディング（用途を明確にしたふるさと納税型クラウドファンディング）では、「バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症検査体制の構築」のために井上亮京都府立大学大学院生命環境科学研究科動物機能学研究室講師へ400万円、「臨床応用にむけたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究」のために小玉正太福岡大学基盤研究機関 再生医学研究所長へ1000万円、「発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験」のために中條大輔富山大学附属病院

臨床研究管理センター特命教授へ1100万円、「ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発」のために永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科特任教授へ1000万円の研究費助成を実現することができました。

平成28年度に実施したバイオ人工膵島を作成する専用の細胞加工センターを国立国際医療研究センターに整備するプロジェクト（7000万円の研究費助成）は、平成31年3月29日に完成しました。

今後の研究進展に期待しています。

ふるさと納税にあたっては、たくさんの応援メッセージを頂戴しています。

「1型糖尿病のことをはじめて知った」というメッセージもあり、この研究支援寄付が1型糖尿病の啓発にも大きく寄与しています。平成31年2月からは、針を刺す必要のない血糖値センサーの開発による「治療」に焦点をあて、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構レーザー医療応用研究グループに対する研究助成のために「ふるさとチョイス」のガバメントクラウドファンディングで取り組んでいます。

患者・家族によるチャリティー企画が進展し、mimiface JAPAN 合同会社代表の山本麻未様はヘアアレンジで、絵本作家くさかみなこ様はブルーパンダの缶バッジで寄付活動に取り組んでいただきました。

大阪マラソンのチャリティー寄付先団体に初めて選ばれました。令和元年12月1日に開催される第9回大阪マラソンには、患者・家族5名を含む20名の方々がチャリティーランナーとして出場を決め、現在、寄付活動に取り組んでいます。

平成23年1月に発足した『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する100人委員会』の委員は144名となりました（本年度2名就任）。ノーベル医学・生理学賞を受賞された京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥氏をはじめ、作家・映画監督の村上龍氏、プロ野球阪神タイガースの岩田稔氏、京都大学名誉教授の西川伸一氏、株式会社大塚製薬工場研究開発センター特別顧問の松本慎一氏ほか様々な分野の方々に“参加”いただいています。加えて『1型糖尿病「治らない」から「治る」―“不可能を可能にする”―を応援する希望の100社委員会』は20企業・団体で、「治る」活動支援等の参加表明をいただいています。

こうした様々な取り組みにも関わらず、1型糖尿病研究基金への寄付額は2年連続で1億円を割り込みました。

なお、研究経過・成果報告会は延期しました。

しかしながら、2025年には1型糖尿病が“治る”病気になるという期待感が年々高まっており、ふるさと納税に過度に依存する現状から脱却するための施策の充実が欠かせません。次年度も、研究への投資等、常に改善を意識してチャレンジを続けます。

また、日本IDDMネットワークは平成12年に佐賀県に本部を移転した団体として、地元佐賀県へ貢献することを目指しています。

当年度は、肥前さが幕末維新博覧会の関連行事「第1回さが維新まつり」（佐賀市城内で開催）に協賛し、「1型糖尿病 治る未来へ」と名入れた提灯で周知しました。

株式会社マザーレンカ様のご提供による「ドクターズチョコレート “サクッ

to COBARA”」を佐賀県内の22団体（食育、高齢者やこどもの支援、スポーツ、国際協力、災害救助、教育、子育て等の団体）に配布し、1型糖尿病の紹介も行いました。

次年度以降も、本部所在地である佐賀県への貢献をさらに意識して取り組みます。

管理運営面では、年々業務が拡大しており、業務委託を進めながらも役職員が相当無理をしています。井上理事長は体調面から以前のような状態での業務は困難であり、大村専務理事は他業務との兼任で業務が遅れがちになっています。事務局は、正職員2名、パートタイム職員5名（以上7名中4名は在宅勤務）及び外部委託（4社に委託）による体制としましたが、外部委託では限界があり、常勤の役職員体制強化が必須です。

徐々に充実した事務局体制になりつつありますが、役員は全員無給で職員の給与水準は低いまです。所要の改善が必要な状況にありますがその目途は未だに立っていません。

女性の活躍推進のために、本部のある佐賀県で、女性の活躍推進佐賀県会議に登録し、下記の自主宣言を行っています。

- 1 2021年までに女性役員・管理職員の比率を30%以上とします。
- 2 2019年中に、パートタイマーでも育児・介護休業が取得しやすくなるよう規定を整備し、育児休業取得率を100%にします。
- 3 2019年中に、職員が安心して仕事を続けられるよう短時間正職員制度創設や在宅勤務の一層の推進を図ります。
- 4 女性の役員・管理職登用に向けて積極的に研修に参加させます。

以上の項目について、全ての宣言内容を実行すべく努力したところです。

また、今年度も延154名（前年度同数、過去最高）のボランティアの方々に助けられました。

なお、非営利組織評価センター様による第三者組織評価「アドバンス評価」を受け、全国初の結果説明があり、27項目中3項目が「基準を満たしていない」という結果でしたが、役職員で議論を行い、納得の行かない点については意見を述べました。この件に関しての再説明はありませんでしたが、指摘を受け組織内部で議論することで役員間のさらなる結束に繋がったところです。

日本IDDネットワーク全体としては、過去最高の収益となり、事業規模は4年連続で1億円を超え、患者・家族のみならず一般社会を巻き込んだ共感の輪は広がり、評価も高まりつつあります。

しかしながら、2025年の1型糖尿病根治実現のためにはまだまだ不十分と言わざるを得ません。

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
ネットワークの拡大・支援					患者及びその家族等	20
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会の活性化のために下記の団体に助成金を2万円交付した。 ・特定非営利活動法人補食の会:2部形式で講演会とグループディスカッションを開催。	3月9日	佐賀市	2人	163人	
ネットワークの拡大・支援	○地域患者・家族会等の下記の事業に対し、後援を行った。 ・つぼみの会 愛知・岐阜「平成30年度 1型糖尿病患者の療養および学校との連携についての教職員向け研修会」	7月25日	名古屋市	1人	138人	
	・岡山小児糖尿病協会「第7回1型糖尿病患者の療養及び学校との連携についての研修会」	8月25日	岡山市	2人	48人	
	・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等「第8回佐賀 type1DM サロン」	9月16日	鹿島市	3人	46人	
	・糖尿病治療研究会「10月8日は、「糖をはかる日」 - 血糖を知る、はかる、コントロールする。-」	9月26日	東京都	4人	78人	
	・佐賀県糖尿病協会、佐賀糖尿病療養指導士会等「第9回佐賀 type1DM サロン」	3月9日	武雄市	3人	56人	
情報収集提供・政策提言					患者及びその家族等	8260
情報収集提供・政策提言	○発症初期の1型糖尿病患者と家族にとって必要な情報を詰め込んだ「希望のバッグ」を配布した。 <バッグに入っているもの> ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってもらいたいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・学校、幼稚園、保育園への説明用パンフレット ・祖父母向けパンフレット ・SLGT2阻害薬注意喚起チラシ ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	9人	1437人	
情報収集提供・政策提言	○インスリン補充を必要とする2型糖尿病患者向けの「希望のバッグ」を配布した。 <バッグに入っているもの> ・専門医がわかりやすく解説したインスリン治療の冊子「『インスリン注射が必要』と書かれている2型糖尿病患者さんへ」 ・専門医による医療情報冊子「1型糖尿病とその治療について最初に知ってもらいたいこと」 ・療養に必要な医療機器やインスリン製剤の一覧 ・注射器や血糖測定器を入れるポーチ ・1型糖尿病の子どもたちからのメッセージDVD ほか	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	9人	66人	
情報収集提供・政策提言	○難病指定による20歳以上の患者への公的支援の実現に向けて専門医等との意見交換や国への要望活動等を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○特別児童扶養手当等の支給について、厚生労働省や地方自治体に対し適切な対応を求めた。	通年	安城市 ほか	2人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○ブタ体内でのヒトの臓器作成等について文部科学省との意見交換を行った。	通年	東京都	2人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○患者の祖父母向けパンフレットを患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	3万人	
情報収集提供・政策提言	○東京学芸大学と協働で作成した学校、幼稚園等での説明用パンフレット「教えて、りんりん！ RinRin 1型糖尿病ってどんな病気？」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	3万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報収集提供・政策提言	○カバヤ食品(株)様から提供いただいたブドウ糖(グルコース)を主成分とした手軽な糖分補給が可能なタブレット「ジュ-0グルコース」を患者・家族等へ配布した。	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○オウンドメディア『PRESS IDDM』で糖尿病に関する様々な情報発信を行った。	通年	船橋市 大津町 ほか	4人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○Facebookで1型糖尿病に関する情報発信を行い、715,400人(前年度比14%増)へのリーチがあった。	通年	船橋市 神戸市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	7人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○リーフレット『「治らない」から「治る」へ』を改訂し、10,000部増刷した。	5月	安城市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○カーボカウント&先進デバイス活用セミナーを開催した。	11月24日 2月3日 2月24日 3月24日	大阪市 東京都 仙台市 広島市	21人 21人 15人 19人	114人 117人 81人 97人	
情報収集提供・政策提言	○「1型糖尿病[IDDM]レポート2018」(IDDM白書)を8,600部作成し、ホームページ上でも公開した。	11月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	9人	36万人	
情報収集提供・政策提言	○熊本県大津町と協働し「第2回IDDMこども会議」を開催した。 ・1型糖尿病患者から家入勲熊本県大津町長へのメッセージ ・西田健朗熊本中央病院内分泌代謝科部長による講演「糖尿病について知ろう！」 ・西田健朗熊本中央病院内分泌代謝科部長、西川伸一NPO法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン代表理事、井上龍夫日本IDDMネットワーク理事長、1型糖尿病のこども達によるパネルディスカッション ・幸せ料理研究家こうちゃん(相田幸二氏)による体験談 ・大津町の取り組み紹介	12月2日	大津町	36人	194人	
情報収集提供・政策提言	○SAP療法を行う患者を対象にインスリンポンプの安全講習会を開催した。	11月23日 12月22日 2月23日 3月9日 3月23日	大阪市 東京都 仙台市 福岡市 広島市	18人 18人 13人 17人 15人	26人 52人 14人 25人 25人	
情報収集提供・政策提言	○公益財団法人テルモ生命科学振興財団様の医療・健康向上貢献事業助成を受け、学校・教職員向け説明パンフレット「教師のための2型糖尿病対応マニュアル」10,000部を作成した。	2月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	3300人	
情報収集提供・政策提言	○公益財団法人テルモ生命科学振興財団様の医療・健康向上貢献事業助成を受け、祖父母向けの2型糖尿病患者説明パンフレット「2型糖尿病の孫を支える祖父母のためのパンフレット」10,000部を作成した。	3月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	3300人	
情報収集提供・政策提言	○日本小児内分泌学会学術集会、日本膝・膵島移植研究会、日本糖尿病学会年次学術集会等で情報収集や情報発信を行った。	通年	仙台市 東京都 名古屋市 佐賀市 ほか	14人	36万人	
調査研究					患者及びその家族等	22838
調査研究	○バイオ人工膵島移植に関する社会的インパクト評価書を作成した。	3月	東京都 佐賀市 ほか	5人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
調査研究	○認定特定非営利活動法人ピースウインズ・ジャパンと協働し低血糖アラート犬の養成を行った。	通年	岡山市 神石高原町 佐賀市 大津町 ほか	11人	36万人	
調査研究	○相談対応等について、AI(人工知能)を活用したプログラム開発に取り組んだ。	通年	東京都 佐賀市 ほか	3人	36万人	
調査研究	○1型糖尿病患者・家族等に必要情報を網羅した「1型糖尿病[IDDM]お役立ちマニュアル」Part1からPart5(別冊を含む6種類)を配布・販売した。	通年	佐賀市 ほか	4人	36万人	
調査研究	○スタンフォード大学が開発した「セルフマネジメントプログラム」の普及に取り組む特定非営利活動法人日本慢性疾患セルフマネジメント協会への協力を行った。	通年	船橋市 佐賀市	2人	36万人	
調査研究	○経済的事由で大学への進学が困難となっている1型糖尿病患者が、1型糖尿病根絶のために研究者、医療者を目指すことを応援するために「1型糖尿病根絶奨学金」を創設し、給付型奨学金(返還不要)を届ける事業を開始した。	6月～	佐賀市 ほか	4人	36万人	
調査研究	○社会的課題の解決という夢の実現に向けて努力している1型糖尿病患者を応援するため「1型糖尿病患者起業支援基金」を創設し、夢に向かって頑張る1型糖尿病患者の起業支援募集を開始した。	6月～	佐賀市 ほか	4人	36万人	
調査研究	○以下の調査・研究等に協力を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤と連携したリアルタイム救急・災害時支援システムの構築(佐賀大学) ・認定特定非営利活動法人等の活動状況に関する調査(内閣府) ・認定特定非営利活動法人等の活動状況に関するアンケート調査(内閣府) ・日本における難病患者の研究参画に関する調査(東京大学先端科学技術研究センター) ・社会的事業に対する資金的・非資金的支援に関するアンケート調査(内閣府) ・認定特定非営利活動法人の遺贈等による現物寄附の受け入れ実態・課題調査(内閣府) 	通年	佐賀市 熊本市	3人	36万人	
関係団体との連携					患者及びその家族等	5
関係団体との連携	○日本糖尿病学会関係者、研究者等と1型糖尿病患者の将来のために情報交換等を行った。	通年	安城市 佐賀市 ほか	3人	36万人	
関係団体との連携	○韓国小児糖尿病協会(KIDDM)の名古屋訪問時に、地元の患者・家族会「つぼみの会愛知・岐阜」とともに交流(勉強会、情報交換会)を行った。	11月4日	名古屋市	1人	260人	
普及啓発					患者及びその家族等	382
普及啓発	○株式会社マザーレンカ様のご提供による「ドクターズチョコレート”サクツ to COBARA”」を佐賀県内の22団体(食育、高齢者やこどもの支援、スポーツ、国際協力、災害救助、教育、子育て等の団体)に配布し、1型糖尿病の紹介も行った。	～7月	佐賀市 ほか	5人	36万人	
普及啓発	○リリー・ペイシエント・フォーラム「がん、糖尿病、認知症、希少・難治性疾患、領域を超えてできること、未来の社会のカたち」にて大村詠一専務理事がパネルディスカッションに登壇し、当法人の活動紹介を行った。	7月12日	神戸市	1人	36万人	
普及啓発	○中日新聞「矛盾だらけの障害年金 1型糖尿病患者(上)」において、1型糖尿病とはどのような病気かについて井上龍夫理事長のコメントが掲載された。	7月19日	安城市	1人	36万人	
普及啓発	○毎日新聞において、西日本豪雨のサポート情報として日本IDDMネットワークの連絡先が掲載された。	7月21日 7月22日 7月29日	佐賀市	1人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○阪神タイガース岩田稔投手(1型糖尿病患者)の患者との試合観戦・交流会(阪神対広島東洋カープ戦)に協力した。	7月24日 7月26日	西宮市	6人	36万人	
普及啓発	○mimifaceJAPAN合同会社様のご協力により、JAPAN FAMILY FESTIVALで行われたビューティーチャリティーの売上の一部と参加された方から低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	8月4日	東京都	6人	36万人	
普及啓発	○佐賀経済新聞[SAGAN COFFEE FESTA & 佐賀経済新聞 コラボ企画「みんなのホットと一息ストーリー」vol.47]において大村詠一専務理事のインタビューが掲載された。	8月15日	佐賀市	1人	36万人	
普及啓発	○NHK総合「あさイチ」でふるさと納税に関する特集があり、日本IDDMネットワークの取り組みが紹介された。	8月23日	東京都 佐賀市	4人	36万人	
普及啓発	○一般社団法人全国コミュニティ財団協会主催の「ふるさと納税とSIBを活用するための実践セミナー」において岩永幸三副理事長が、1型糖尿病と当法人のふるさと納税の取り組みについて紹介した。	9月3日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○TEDxKUMAMOTOにおいて大村詠一専務理事が、不治の難病「1型糖尿病」を治る病気にするため、「インスリン注射が不要な“根治”を目指し、治療研究費を集める活動に人生を駆ける」というタイトルで講演を行った。	9月30日	熊本市	1人	36万人	
普及啓発	○第52回日本小児内分泌学会学術集会のラウンドテーブルディスカッション“My Happy Type 1 Life”にて大村詠一専務理事が講演を行った。	10月6日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○1型青春サミット、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社共催「第2回1型青春サミット」において井上龍夫理事長と大村詠一専務理事が講演や対談を行った。	10月6日	名古屋市	2人	36万人	
普及啓発	○肥前さが幕末維新博覧会の関連行事「第1回さが維新まつり」に協賛し、「1型糖尿病 治る未来へ」と名入れした提灯で周知を行った。	10月20日	佐賀市	3人	36万人	
普及啓発	○第18回「ヘルスケア関連団体ワークショップ」にて岩永幸三副理事長が日本IDDMネットワークのふるさと納税をはじめ多彩な資金調達について紹介した。	10月20日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○長崎県主催「NPO協働フォーラムつながるfesta in県庁」において岩永幸三副理事長が日本IDDMネットワークの活動について紹介した。	10月21日	長崎市	1人	36万人	
普及啓発	○国立国際医療研究センター主催、糖尿病週間・世界糖尿病デー市民公開講座「糖尿病を知ろう～糖尿病と運動をめぐる話題～」において大村詠一専務理事が「私の挑戦～1型糖尿病とともに生きる～」というタイトルで講演を行った。	11月12日	東京都	1人	36万人	
普及啓発	○一般財団法人ふくしま百年基金主催「ふくしま百年基金シンポジウム2018 社会的資金 最前線！～これからの地域活動を支える新しい資金を考える～」において岩永幸三副理事長が日本IDDMネットワークのふるさと納税等について紹介した。	12月15日	福島市	1人	36万人	
普及啓発	○ライオンズクラブ国際協会334-A地区 2リジョン主催の講演会「1型糖尿病への理解と支援を求めて」で井上龍夫理事長が当法人の活動について紹介した。	3月2日	豊橋市	3人	36万人	
普及啓発	○東日新聞「1型糖尿病への理解と支援を求めて」において、1型糖尿病への理解と支援を求めて井上龍夫理事長が行った講演についての記事が掲載された。	3月5日	豊橋市	1人	36万人	
普及啓発	○「SAGAN COFFEE FESTA さがんコーヒーフェスタ」に出展し、1型糖尿病と当法人の活動についてPRを行った。	3月10日	佐賀市	3人	36万人	
普及啓発	○医学・医療情報のキュレーションジャーナル「CURASAW」に公式チャンネルが開設された。	3月26日～	東京都 佐賀市	2人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	○mimifaceJAPAN合同会社様のご協力により、「かぞくみらいフェス2019」で行われたビューティーチャリティーの売上の一部と参加された方から低血糖アラート犬プロジェクトへ寄付された。	3月27日 3月28日	東京都	6人	36万人	
普及啓発	○ライオンズクラブ国際協会 330-A地区 1R-1Z 東京丸の内ライオンズクラブ60周年記念式典・チャーターナイトに井上龍夫理事長が出席し、1型糖尿病と当法人の活動について紹介した。	4月3日	東京都	5人	36万人	
普及啓発	○「僕はまだがんばれるー“不治の病”1型糖尿病患者、大村詠一の挑戦ー」(じゃこめてい出版)を配布・販売した。	通年	佐賀市 大津町 ほか	5人	36万人	
普及啓発	○全国各地の小・中学校、高等学校、企業、サマーキャンプ、イベント等で、大村詠一専務理事が1型糖尿病に関する講演を15回行った。	通年	全国各地	1人	36万人	
普及啓発	○毎日新聞、サガテレビ、NHK、徳島新聞、朝日新聞、佐賀新聞、東日新聞、北日本新聞社、日本経済新聞、ミクスonline、TBSテレビからの1型糖尿病、1型糖尿病研究基金、ふるさと納税、循環型研究資金、低血糖アラート犬等に関する取材協力を行った。	通年	東京都 安城市 佐賀市 大津町 ほか	8人	36万人	
療育相談					患者及びその家族等	3062
療育相談	○電子メール(222件)、SNS(6件)、面談(20件)、相談電話(194件)、ホームページ(769,450件)等を通して、様々な相談等に対応した。	通年	船橋市 東京都 安城市 木津川市 佐賀市 大津町 和水町 ほか	12人	36万人	
療育相談	○認定NPO法人サービスグラントのプロジェクト「ママボノ(育休中や離職中の子育て女性たちが仕事復帰に向けたウォーミングアップと同時に社会貢献活動を行う)」の方々によるウェブサイト改修提案をもとにホームページの全面リニューアルを行った。	7月17日～	東京都 佐賀市 大津町	6人	36万人	
会報発行					患者及びその家族等	241
会報発行	○会員等への情報提供のため、活動報告レポートを4, 200部発行した。	6月21日	佐賀市 ほか	10人	36万人	
会報発行	○会員等への情報提供のため、メールマガジンを配信した。	9月6日 11月1日 12月31日 1月19日 1月29日 2月13日 2月27日 4月10日 4月25日 5月11日 5月15日 5月24日 5月25日	東京都 安城市 福岡市 佐賀市 熊本市 大津町	6人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成					患者及びその家族等	52400
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○研究成果により当該研究機関が対価を得た場合、提供した金額を上限にその研究資金が当法人に還元され、その還元された資金で別の研究機関を支援する「循環型研究資金」として以下の研究に資金提供を行った。 ・ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症1型糖尿病モデルブタの開発 研究代表者: 谷原史倫徳島大学生物資源産業学域 特任助教 研究資金: 200万円(契約に基づく循環型研究資金) × 2年分(計400万円)	10月31日 6月14日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、バイオ人工膵島移植実現を目指す下記2件に研究助成を行った。 ・バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症検査体制の構築 研究代表者: 井上亮京都府立大学大学院生命環境科学研究科動物機能学研究室講師 助成額: 400万円 ・臨床応用にむけたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究 研究代表者: 小玉正太福岡大学基盤研究機関再生医学研究所所長 助成額: 1,000万円	1月17日 1月31日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、自己免疫機能を制御することで安定した血糖値が得られることを目指す下記研究に助成を行った。 ・発症早期1型糖尿病に対する免疫修飾療法の有効性と安全性に関する臨床試験 研究代表者: 中條大輔富山大学附属病院臨床研究管理センター特命教授、国立国際医療研究センター病院糖尿病内分泌代謝科 助成額: 1,100万円	3月19日	安城市 佐賀市 大津町	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」助成対象課題の中で継続助成を希望されていた研究課題3件へ助成を行った。 ・1型糖尿病を発症しない動物モデルの確立と発症抑制機序の解明(継続3年目) 研究代表者: 宮寺浩子筑波大学医学医療系助教 助成額: 100万円 ・糖尿病治療用遺伝子改変ブタの開発(継続2年目) 研究代表者: 宮川周士大阪大学医学系研究科小児育成外科 医局員 助成額: 100万円 ・自然免疫系を標的とした1型糖尿病の治療法開発(継続2年目) 研究代表者: 福井竜太郎東京大学医科学研究所感染遺伝学分野助教 助成額: 100万円	5月15日 6月11日 6月18日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	13人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○1型糖尿病の根絶につながるあらゆる研究を応援する「1型糖尿病研究基金」の第13回研究費助成の公募を行い、10件の応募の中から下記4件へ助成を行った。 ・1型糖尿病モデルマウスを用いた新規インスリン基礎分泌促進ペプチド(タークペプチド)の前臨床研究 研究代表者: 佐伯久美子国立国際医療研究センター研究所・室長 助成額: 120万円 ・1型糖尿病に対するIL-7R標的Antibody-drug conjugate(ADC)の開発 研究代表者: 安永正浩国立がん研究センター・先端医療開発センター・新薬開発分野ユニット長 助成額: 100万円(最長7年) ・1型糖尿病に対する根治治療としての自己由来脂肪幹細胞から作成したinsulin producing cell自家移植法臨床応用に関する研究開発 研究代表者: 池本哲也徳島大学病院消化器・移植外科特任准教授 助成額: 100万円(最長3年) ・ヒト膵島を用いた膵β細胞量増大の実現に向けた研究 研究代表者: 白川純横浜国立大学医学部内分泌・糖尿病内科講師 助成額: 400万円	5月17日 5月21日 5月28日 5月28日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	14人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付金を財源とし、ウイルス糖尿病予防ワクチン開発を目指す下記研究に助成を行った。 ・ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発ー糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指してー 研究代表者: 永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授・九州大学名誉教授 助成金: 1,000万円	6月18日	安城市 佐賀市 大津町	6人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)研究費助成	○佐賀県庁の協力により実施した「日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税」による寄付を財源とし、1型糖尿病患者の大規模災害時の支援システム確立を目指す下記研究に助成を行った。 ・1型糖尿病患者の Personal Health Record 情報集積による大規模災害時の効果に関する検討 研究代表者: 阪本雄一郎佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター長 助成金: 320万円	6月18日	安城市 佐賀市 大津町	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム					患者及びその家族等	865
1型糖尿病研究基金(特別会計)シンポジウム	日本IDDMネットワークサイエンスフォーラム2019 in 東京を開催した。 ・講演「膵島移植&バイオ人工膵島移植プロジェクトの現状と今後」 ①膵島移植の現状と今後 ②バイオ人工膵島移植の現状と今後 1) 細胞加工施設(CPC)の建設とバイオ人工膵島の今後 2) 無菌ブタ作成の現状と今後 3) ウイルス感染検査技術の現状と今後 ・サイエンスカフェ等の分科会 テーマ①「バイオ人工膵島移植の実現」 テーマ②「糖尿病原因ウイルスに対するワクチン開発」 テーマ③「試験管の中でどんな細胞でも、インスリンも作れるかもしれない技術の開発」 テーマ④「自己免疫によるインスリン分泌の低下を止めることはできるのか？」 テーマ⑤「ゲノム編集技術を用いた自然発症1型糖尿病モデルブタの開発」 テーマ⑥「胎盤から採取される幹細胞を用いて1型糖尿病根治を目指す」 テーマ⑦「自然免疫系を標的とした1型糖尿病の治療法の開発」 テーマ⑧「針を刺す必要がない血糖値センサーの開発」	6月1日	東京都	58人	166人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報					患者及びその家族等	22128
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」-“不可能を可能にする”-を応援する100人委員会の委員が144名となった。 <100人委員会の役割> ・不可能を可能にするこの取り組みを“社会に発信”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みの“戦略に助言”する。 ・不可能を可能にするこの取り組みに“参加”し患者と家族に勇気を与える。	通年	船橋市 安城市 佐賀市	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病「治らない」から「治る」-“不可能を可能にする”-を応援する希望の100社委員会の委員は昨年度と同数の20社・団体のままであったが、各社・団体からは、様々な「治る」活動支援等の参加表明が寄せられている。	通年	佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○1型糖尿病研究基金のマンスリーサポーター獲得施策をgooddo株式会社に委託して取り組んだ。	通年	東京都 佐賀市 大津町	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○公益財団法人パブリックリソース財団様のご協力により、オンライン寄付サイト「Give One(ギブワン)」で「不治の病“1型糖尿病”の子どもたちを助きたい！」と題して、1型糖尿病研究基金への寄付をお願いした。	通年	船橋市 佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○日本IDDMネットワークを指定して佐賀県庁へふるさと納税をしていただいた方々へ、佐賀県の患者家族によるこだわりの品(有田焼、有明海産海苔)、1型糖尿病根治の取り組みに共感頂いた佐賀の生産・加工業者の方々によるこだわりの品(農産物、伝統工芸品等)、糖尿病患者に向けた品(インスリンポーチ、医療識別票等)をお礼として送付した。	通年	佐賀市 唐津市 伊万里市 鹿島市 小城市 嬉野市 神崎市 みやき町 有田町 大町町 白石町 太良町 ほか	7人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、バイオ人工膵島移植の研究をさらに加速するための研究への支援を呼びかけた。 目標:20,000,000円 実績:21,754,717円 792人からの支援申込あり	(2018年2月5日)～ 9月30日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、第1期(目標額2,000万円)を中條大輔富山大学附属病院臨床研究管理センター特命教授、国立国際医療研究センター病院糖尿病内分泌代謝科のグループによる自己免疫を制御させる免疫療法の研究へ、第2期(目標額1,000万円)で永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授・九州大学名誉教授が中心となって進めている予防ワクチン開発への支援を呼びかけた。 目標:30,000,000円 実績:31,242,074円 1,001人からの支援申込あり	10月5日 ～ 1月31日	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「ふるさとチョイス」(株式会社トラストバンク運営)と協働し、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定のふるさと納税(寄付)で、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構レーザー医療応用研究グループリーダー並びにライトタッチテクノロジー株式会社の代表取締役社長である山川孝一氏が中心となって進めている針を刺す必要がない血糖値センサーの開発への支援を呼びかけた。 目標:25,000,000円 ※支援呼びかけ中	2月20日～	佐賀市 大津町 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○YAHOO! JAPAN様のご協力により「Yahoo!ネット募金」で1型糖尿病根治の方法である膵島移植やバイオ人工膵島移植をより安全で効果を持続させる「マクロカプセル化膵島」の開発を支援するため「年間1,600回の注射を打ち続けなくてはならない“不治の病”の子どもたちに“治る”希望を」と題して呼びかけた。	8月7日～	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさと納税のPRパンフレットを10,000部作成した。	10月	佐賀市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○「1型糖尿病研究基金」で研究助成を行っている研究室を訪問し、先端研究について直接研究者から聞くとともに、寄付がどのように研究現場でいかされているのかを見るため下記の5箇所を訪問した。 ・大阪大学医学系研究科(中神啓徳大阪大学大学院連合小児発達研究科教授) ・京都府立大学生命環境科学研究科(井上亮京都府立大学大学院生命環境科学研究科動物機能学研究室講師) ・福岡大学医学部再生・移植医学講座(小玉正太福岡大学基盤研究機関 再生医学研究所 所長) ・富山大学附属病院臨床研究管理センター(中條大輔富山大学附属病院臨床研究管理センター特命教授、国立国際医療研究センター病院糖尿病内分泌代謝科) ・佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科(永淵正法佐賀大学医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科 特任教授・九州大学名誉教授)	10月1日 1月15日 1月30日 3月18日 6月23日	吹田市 京都市 福岡市 富山市 佐賀市	2人 1人 2人 1人 1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○ふるさとチョイス(株式会社トラストバンク運営)のメールマガジンで「一生、毎日5回の注射を打たなければならない“不治の病”から子ども達を助けたい」プロジェクトが紹介された。	10月13日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク、糖尿病リソースガイド(創新社運営)で「1型糖尿病を根絶するための研究」を支援 日本IDDMネットワーク」が掲載され、「バイオ人工膵島移植」について紹介された。	10月18日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○当法人に対する応援メニューを掲載したクリアファイルを2,000部作成した。	11月	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○国立大学法人では初となる循環型研究資金による委託事業契約を徳島大学と締結し記者会見を行った。	11月9日	徳島市	2人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○第4回ふるさとチョイス大感謝祭2018に出展し、1型糖尿病や当法人指定のふるさと納税についてPRを行った。	11月10日 11月11日	横浜市	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○徳島新聞「1型糖尿病 徳島大学に治療研究資金 認定NPO法人日本IDDMネットワークが提供 成果出れば還元」において、当法人の徳島大学への1型糖尿病の根治に向けた循環型研究資金の取り組みについて掲載された。	11月11日	安城市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○4年目となる全国的な寄付啓発キャンペーン「寄付月間～Giving December～」の賛同パートナーとして、1型糖尿病の「根絶」を目指し歳末寄付を会員ほか関係者へお願いした。	12月	安城市 佐賀市 大津町 ほか	8人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○毎日新聞「1型糖尿病 研究を支援 患者・家族のNPO、徳島大に5年間で1,000万円提供」において、当法人の徳島大学への1型糖尿病の根治に向けた循環型研究資金の取り組みについて掲載された。	12月1日	安城市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○バイオ人工膵島移植実現に向けた感染症検査体制構築の研究のため、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄付金400万円を京都府立大学へ助成することとし、贈呈式を開催した。	1月15日	京都市	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○臨床応用に向けたバイオ人工膵島の長期生着に関する研究のため、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄付金1,000万円を福岡大学へ助成することとし、贈呈式を開催した。	1月30日	福岡市	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○プロバスケットボールチーム滋賀レイクスターズが開催する「ブルーサークルGAME」に出展し、1型糖尿病や当法人の活動についてPRや募金活動を行った。	1月30日	大津市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○朝日新聞「糖尿病根治研究へ 福大に1000万円 1型患者支援NPO 原資は佐賀県ふるさと納税」において、当法人の福岡大学への「日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税」による研究助成について掲載された。	1月31日	福岡市 大津町	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○2019年12月1日に開催される第9回大阪マラソンのチャリティ寄付先団体(チャレンジパートナー)に選ばれ、当法人のチャリティランナーとして、20名(うち患者・家族5名)が、寄付活動を開始した。	2月～	全国各地	23人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○佐賀新聞「1型糖尿病」研究推進を 佐賀市のNPOが1000万円寄付福岡大へ。」において、当法人の福岡大学への「日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税」による研究助成について掲載された。	2月18日	福岡市 佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○自己免疫を制御することで1型糖尿病の治療を試みる国内初の臨床試験研究に向けて、佐賀県庁への日本IDDMネットワーク指定「ふるさと納税」による寄付金2,000万円のうち1,100万円を第1期分として富山大学へ助成することとし、贈呈式を開催した。	3月18日	富山市	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○北日本新聞「富山大附属病院に助成金 1型糖尿病の研究支援NPO」において、当法人の富山大学附属病院への「日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税」による研究助成について掲載された。	3月19日	安城市	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク、糖尿病リソースガイド(創新社運営)で「1型糖尿病を根絶するための研究」を支援 日本IDDMネットワークが掲載され、当法人の活動、1型糖尿病研究基金、第13回研究費助成で採択された4つの助成研究、「針を刺さない血糖値センサー」のふるさと納税によるクラウドファンディングについて紹介された。	4月5日	佐賀市 大津町	3人	36万人	
1型糖尿病研究基金(特別会計)広報	○糖尿病ネットワーク、糖尿病リソースガイド(創新社運営)で「日本IDDMネットワークが新たな研究支援 “1型糖尿病を根絶”」が掲載され、当法人の活動、ふるさと納税や循環型資金提供など1型糖尿病研究基金による研究支援について紹介された。	4月17日	安城市 佐賀市 大津町	3人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○京都新聞 がっけんたんけん欄において、ライトタッチテクノロジー株式会社「針を刺さない血糖値センサー」の開発について掲載され、当法人の佐賀県ふるさと納税を活用した研究支援プロジェクトについて紹介された。	4月24日	安城市 福岡市 佐賀市 大津町	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○第2回山田和彦賞を坂口志文大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学・特任教授に授与(賞金1000万円)することを、6月1日サイエンスフォーラムにて発表し、プレスリリース、ホームページで公開した。	6月1日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	7人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○研究費助成公募の新たな形態として、1型糖尿病の「治療」、「根治」、「予防」につながるあらゆる研究を支援するため、助成金額を概ね1000万円以上とする研究課題の随時募集を開始した。	6月1日	安城市 佐賀市 大津町 ほか	11名	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○日本経済新聞 かがくアゴラ欄において「1型糖尿病 研究資金を支援 日本IDDMネットワーク理事長 井上龍夫氏」として当法人の研究助成活動が掲載された。	6月7日	東京都	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計) 広報	○佐賀新聞「糖尿病患者団体が研究助成 ふるさと納税活用、佐賀大に1320万円」において、当法人の佐賀大学への“日本IDDMネットワーク指定ふるさと納税”による1320万円の研究助成について掲載された。	6月18日	佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	<主な寄付金収入実績>					
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○毎月定額(1口1000円)で当研究基金のサポートをいただくノーモア注射マンスリーサポーターから寄付を頂戴した。 サポーター数:279名で 693口 寄付金額:6,612,000円	通年	全国各地	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○コカ・コーラグループ各社様、(株)伊藤園様、サントリービバレッジサービス(株)様、(株)ジャパンビバレッジホールディングス様、(株)ベネフレックス及びFVジャパン(株)様、(株)コーシン様、(株)TGサポート様、(特非)ジャパン・カインドネス協会様、大塚ウエルネスペンディング(株)並びに難病・慢性疾患患者支援自動販売機を設置いただいた皆様のご協力により、その飲料売上額の一部が当研究基金へ寄付された。 設置台数:68台(6台新設) 寄付金額:1,699,838円	通年	仙台市 つくば市 下野市 上里町 千葉市 市原市 東京都 新潟市 三条市 柏崎市 燕市 富山市 白山市 福井市 小浜市 鯖江市 越前市 南越前町 おおい町 名古屋 一宮市 京都市 綾部市 枚方市 門真市 東大阪市 姫路市 岡山市 福山市 佐賀市 大分市 肝付町	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリューブックス様と協働で家庭や職場に眠っている古本を提供いただく「ノーモア注射～希望の本プロジェクト」により寄付を頂戴した。 冊数:15,787冊 寄付金額:338,998円	通年	全国各地	6人	36万人	

2 事業の実施に関する事項
 (1)特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○(株)バリューブックス様の協力で家庭や職場にある書き損じ・未使用のハガキを提供いただく「書き損じハガキプロジェクト」により寄付を頂戴した。 枚数: 2,244枚 寄付金額: 100,980円	通年	全国各地	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○ソフトバンク株式会社様のご協力で、スマートフォンなどから寄付できる「つながる募金」により寄付を頂戴した。 寄付金額: 869,782円	通年	全国各地	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○機種変更・新規申し込みでソフトバンク株式会社様から寄付されるチャリティモバイルによる寄付を頂戴した。 寄付金額: 9,139円	通年	全国各地	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○TMコミュニケーションサービス株式会社様のご協力で、不用品の買取価格に10%が加えられた金額をいただく「お宝エイド」により寄付を頂戴した。 寄付金額: 121,186円	通年	全国各地	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○絵本作家くさかみなこ様のご協力により、ブルーパンダの缶バッジの売上の一部が寄付された。 寄付金額: 162,000円	通年	全国各地	1人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○カバヤ食品株式会社様より「カバヤ・オハヨーグループ さくらまつり」の収益の一部が寄付された。 寄付金額: 200,000円	5月27日	岡山市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○株式会社マザーレンカ様のご提供による「ドクターズチョコレート“サクツ to COBARA”」を購入することでその代金を当法人への寄付としていただく「サクツ to COBARA募金」を呼びかけた。 寄付金額: 189,600円	~7月	東京都 佐賀市 ほか	6人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「故柳瀬美穂氏は、生前から、ご自身の財産を“1型糖尿病の研究を行う機関に寄付してほしい”と強く希望されていました。故柳瀬氏のご遺志として、1型糖尿病の治療に向けた研究に宛てて、ここに寄付させていただきます。」として相続財産管理人を通じてご寄付いただいた400万円の「柳瀬美穂1型糖尿病研究基金」を設立した。	8月1日	佐賀市 ほか	5人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「岩田稔基金」に匿名で100万円のご寄付をいただいたため、総額を400万円に増額した。	9月3日	安城市 佐賀市	2人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「1型糖尿病根治に向けた研究助成にご活用ください」としてSky株式会社様よりご寄付いただいた300万円の「Sky基金」を設立した。	2月13日	佐賀市 ほか	4人	36万人	
1型糖尿病研究基金 (特別会計)	○「病氣完治に向け患者と共に闘う家族の願いを「ファミリー」の語に込め基金名としました。12年前の3月、14才で糖尿病を発症した長男は新薬の開発を望んでいます。」としてご寄付いただいた合計200万円の「竹原ファミリー基金」を設立した。	3月8日 5月21日	佐賀市 ほか	5人	36万人	

(2)その他の事業 該当なし

(3)その他

- 総会: 通常総会を平成30年8月25日名古屋市で開催
- 理事会: 第33回理事会を平成31年3月16日福岡市で開催